

年間授業計画

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 地理歴史科 科目 世界史探究
教科：地理歴史科 科目：世界史探究 単位数：4 単位
対象学年組：第3学年 1組～6組

使用教科書：（世界史探究『高校世界史』山川出版社）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色と歴史に関して、調査や諸資料から様々な情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明することができる。

【学びに向かう力、人間性等】我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A 単元 ・オリエント文明、ギリシア文明、古代ローマがそれぞれどのように関係して興ったのか、それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのかについて理解する。	第Ⅰ部第1章・4章 ・「オリエント」文明 ・「ギリシア世界」 ・「ローマと地中海世界」	【知識・技能】 オリエント文明からヨーロッパの古代文明について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 それらの文明がのちの社会にどのような影響を与えたのか考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	B 単元 ・インダス文明、中国文明の興りについて理解する。また、秦・漢帝国の国家体制について理解する。	第Ⅰ部第1章 ・「南アジアの古代文明」 ・「中国の古代文明」 ・「秦・漢帝国」	【知識・技能】 インダス文明、中国文明が形成されていく過程を、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 インダス文明や中国古代文明、秦・漢帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 古代文明の内容に対して、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	C 単元 ・中国と周辺地域の交流はどのようにして広がったのかについて理解する。また、日本や東アジアの国々は隋唐の文化をどのように受容したのかについて理解する。	第Ⅰ部第2章 ・「中国の分裂」 ・「東アジア文化圏の形成」 ・「宋と東アジア諸地域の自立化」	【知識・技能】 中国の分裂・隋唐帝国にはじまる東アジアの国際秩序について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 中国の分裂・隋唐帝国について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 中国や周辺地域の関係性について、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	D 単元 ・西ヨーロッパの封建社会はどのような背景で成立し、東ヨーロッパの民族・国家・宗教はどのように結びついたのかについて理解する。	第Ⅰ部第5章 ・「ヨーロッパ世界の形成」 ・「西ヨーロッパ世界の変容」 ・「東ヨーロッパ世界」	【知識・技能】 西ヨーロッパ封建社会の成立や東ヨーロッパ社会の動向について、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 東西ヨーロッパの社会やしくみについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 東西ヨーロッパ世界の成立と変容が現代社会にどのように関係しているか追究しようとする。	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1

2 学 期	A 単元 ・モンゴル帝国はどのようにして大帝国へと発展したのかについて理解する。 ・ヨーロッパ人の海洋進出をきっかけに世界が大きく変化していくことを理解する。	第Ⅱ部第8章 ・「モンゴルの大帝国」 ・「アジア交易世界の興隆」 ・「ヨーロッパの海洋進出」	【知識・技能】 アジア海域での交易の興隆を基に、諸地域の交易の進展とヨーロッパの海洋進出を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 アジア諸地域の交易とヨーロッパの海洋進出や諸地域相互のつながりなどを考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 アジアとヨーロッパがつながる過程について、見通しをもって学習に取り組み、追究しようとしている。	○	○	○	16
	B 単元 ・清朝が成立した長期政権について理解する。 ・ルネサンスにはじまる近世の主権国家はどのような特徴をもっていたかについて理解する。	第Ⅱ部第9章・10章 ・「清代の中国と隣接諸地域」 ・「ルネサンス」 ・「主権国家体制の成立」	【知識・技能】 清の統治や対外関係、近世の主権国家の成立について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 清朝やヨーロッパ主権国家が周辺地域に与えた影響について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 清朝や主権国家の成立について、見通しをもって学習に取り組み、問いに対して追究しようとする。	○	○	○	16
	定期考査			○	○		1
	C 単元 ・イギリスで産業革命がはじまった原因について理解する。 ・産業革命と環大西洋革命について概念的に理解する。	第Ⅱ部第11章・12章 ・「産業革命」 ・「アメリカ合衆国の独立と発展」 ・「フランス革命」 ・「ウィーン体制」	【知識・技能】 産業革命と環大西洋革命について諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 産業革命と環大西洋革命について、主題を設定して考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 産業革命と環大西洋革命についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。	○	○	○	16
	D 単元 ・欧米列強はなぜアジアやアフリカなどに進出しようとしたのかについて理解する。 ・大戦前と大戦後を比べて、国際秩序のあり方はどのようにかわったのか理解する。	第Ⅱ部第12章・13章 ・「列強体制の動揺とヨーロッパ再編成」 ・「第一次世界大戦」 ・「ヴェルサイユ体制下の欧米諸国」	【知識・技能】 列強の覇権争いや第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を諸資料から読み取り理解している。 【思考・判断・表現】 第一次世界大戦後の国際秩序のあり方について考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 第一次世界大戦の展開と諸地域の変容の内容に対して、見通しをもって学習に取り組んでいる。	○	○	○	16
3 学 期	定期考査			○	○		1
	A 単元 ・世界恐慌が国際協調体制にどのような打撃を与えたのかについて理解する。 ・ヨーロッパではじまった戦争がどのようにアジア・太平洋での戦争と連動し、「第二次世界大戦」となったのかについて理解する。	第Ⅱ部第17章 ・「世界恐慌」 ・「第二次世界大戦」	【知識・技能】 世界恐慌から第二次世界大戦への流れについて、諸資料から読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 国際協調体制の動揺によって再び世界大戦へと向かうことについて考察し、自らの言葉で表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 国際協調体制の動揺から第二次世界大戦についての自らの学習を振り返り、学びを深めている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
							合計 140